

1月5日の日出帯食観測記

塩田和生

太平洋を横切る細長い地域で金環食となった1月5日の日食は、日本では日出帯食となりました。私は、正月休みの最終日に起こったこの日食を水平線から昇って来るところで捉えようと、西湘バイパスの国府津パーキングエリアに出かけて観測を行いました。結果は、多少雲があったものの、三浦半島の先端の少し右側から欠けたままで昇って来る太陽をうまく眺めることが出来ました。

持参した機材は、望遠鏡とカメラそれに8ミリビデオカメラなどで、日の出の10分前ぐらいに準備を終えホットコーヒーを飲みながら日の出を待ちました。6時51分に予報通り日の出を迎え、太陽が半分ほど昇ったところで、半円形の太陽の右下に黒い楕円形の斑点がくっついたような形で欠けた部分が見え始めました。薄い層状の雲が縞模様を形成していたこともあり、あたかも大赤斑（大黒斑？）を伴った木星の模様を連想させる光景でした。そして太陽が昇るにつれてこの大黒斑がどんどん大きくなり、膨らんだ餅の右下を虫が食った様な形に変化し、やがて楕円形の部分食の太陽が全貌を現しました。この間1～2分の形状の変化は中々興味深いもので、まさにビデオカメラの好対象という感じでしたが、持参したビデオカメラはバッテリーがチャージ不足で日の出までもたず録画出来ませんでした。

写真撮影の方は、望遠鏡の直接焦点で20コマ程適当にシャッターを切りました。その中の6枚を並べてみたのが次ページの写真で、形の変化の様子が一通り分かると思います。データはまじめに記録しなかったののでいい加減ですが、概略下記の通りです。

(写真データ)

望遠鏡 : PENTAX 105SDHF 直接焦点
カメラ : NIKON F2
フィルム : Velvia (RVP)
露出 : 1/60 ~ 1/125 秒

なお、日本で今後起こる日出帯食・日没帯食は下表の通りです。("Fifty Year Canon of Solar Eclipse: 1986-2035" による)

(2035年までに日本で起こる日出帯食、日没帯食)

年月日	現象	地域	食分(日出・日没時)
1992年12月24日	日出帯食	九州・山陰の一部	軽微
2010年 1月15日	日没帯食	関東以西	九州で0.5程度
2011年 6月 1日	日出帯食	能登半島付近	軽微
2019年12月26日	日没帯食	関東以東	北海道で0.3程度
2032年11月 3日	日没帯食	関東以東	北海道で0.4程度

